



Handwritten text in Arabic script on a vertical label, including a small number '7' at the bottom.

^ 5  
4657  
2





昭和十六年一月十一日寄  
尼野貴英氏贈

のちれ一連の氣の 出よ 五義

草子くわく 家のあそびよ 夢の月 高遠

その中 さまざまの 通つて 月と 樹 ニテ 三粒生

ハコウのまんくと 雲の 本音 流石 ニテ 未曉

一度く 身をまわし かくて 梅のう 業 里松

世代の 才まさいち せしあそび 也 仙遊

さるや ちさうちさう 山の 家 松山

小嵐の 階々 せきり とも 拂 松子

振合の 海の 神々 羊の 息 松野

晴を心て暮あしうのや ムリ 暮ちま終 ムリ 多代

新と川や昨は年物の年さりり 鬼風

川にけのあまもきてくいの心 二極

ほろく節のあかや 一止

紙のよりきりしあふたれ 今用

山里や雪解の初 蒸庭

くは秋の堪あき 蓬阿

あまの候 二ハ 松や 二ハ 櫻山

流めふや 二止

ちとあれあ 二葉

余のは 汶水

葉 風

ほの 美千代

流 玄子

替 女二

物 松 山

そ 砂山

す 一軒



夕の門へ 庭にハキキ 杉の叶 二十セシ 布依  
 羊の衣を 赤くして 赤くく 新外 市程  
 清く 清く 日のあやと 千たあ系 全形  
 着つゆ 心人も 赤くく 舌の音 三巴  
 四つも 好くよ 赤くく 月の懐 舟境  
 五の月 赤くく 赤くく 赤くく 士花  
 千はく 赤くく 赤くく 赤くく 南山  
 赤くく 赤くく 赤くく 赤くく 赤命

於かお金に昔の家真形

昔の赤くく 赤くく 赤くく 赤くく  
 赤の赤くく 赤くく 赤くく 赤くく

故巻机

柳のく 余赤くく 赤くく 赤くく 赤くく  
 月も 赤くく 赤くく 赤くく 赤くく  
 引赤の 赤くく 赤くく 赤くく 赤くく  
 赤くく 赤くく 赤くく 赤くく 赤くく  
 赤くく 赤くく 赤くく 赤くく 赤くく  
 赤くく 赤くく 赤くく 赤くく 赤くく

紫陽花の葉あつたうらうらうらうら  
丁由

子きくくもてさ 帝さ 飛くは  
水台

人多れぬをぬのたをたてあはし  
叶昔

着のたかいさやらし 西月  
初鞍

あつさくさき子のやうな分仙貝  
松堂

屏風押さしきくくれくくく  
、并

さる月さ意慕のやうさ 思あさ  
月雄

美くくあくあもさうあさ  
水

床さくく何さくくあさくく  
素海

控さあくくあくく 辻考の 非 爰之

花あつたあつたの傳ふたさみて  
曾外

あさあはささのあさくくあさ  
あ訓

下種くくあさくくあさくくあさ  
苔海

一吹雪

鳴くさハ音とさくくあさくくあさ  
柳壺

風さ向く人さああさくくあさ  
江波

中ささあさくくあさくくあさ  
卓文

夕の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 新の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 冬に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 春の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 夏に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 冬に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 春の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 夏に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ

夕の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 新の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 冬に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 春の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 夏に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 冬に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 春の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 夏に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 冬に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 春の月あり。是悟くハマキと云れそ  
 夏に秋の月あり。是悟くハマキと云れそ

所山や葉細くしてあまの 風は 文郷  
 下は波のよやせりしとよの月 笑園  
 疎海の家のみや修し 松のむ 涇松  
 千のうもぬくふりのむやる磯海 紙中 糸打  
 所ふり群まり 志やかまつとく 都盤  
 朝うほや色ハもあれそ川 荅 荃里  
 せぬむく下とくるはきおとくり 卜水  
 一人つゝのうもれりり けのまのせ 松堂  
 き解や 言も あり ある ある 六八

るもの出くぬれ 秋のぬはけ 暮抄  
 ちつとれハ家のうけきり 赤穂丸 百滌  
 海合のさるも 年傳ふ せうかうね 年裡  
 秋もきく日あつうきく 何京野 其後  
 降ものつきく ちや 岡古 号畝  
 けねも通ふや 樹らのけ志けり 文成  
 志くもの海く 新や 暮秋のちる 茶屋  
 稲妻や ねく 暮秋のちる 暮年  
 遠火や 細向ふ 此 暮秋のちる 暮年





以ててあつてあつて一布籠の如く  
 定きらねる年数や若くは  
 華しくく男 善の あつていふ  
 池尾や所の中いふ  
 毎の家あつてあつてあつて  
 子孫の事や小娘いふ  
 傘の白くけてあつて  
 甚服やあつてあつて  
 稲妻やあつてあつて  
 松美杉

田舎あつてあつてあつて  
 年々あつてあつてあつて  
 方角あつてあつてあつて  
 若くはあつてあつてあつて  
 月夜あつてあつてあつて  
 名月あつてあつてあつて  
 畑の事あつてあつてあつて  
 泣くやあつてあつてあつて

一志<sup>一</sup>く<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>る<sup>一</sup> 夕<sup>一</sup>立<sup>一</sup>る<sup>一</sup> 斗<sup>一</sup>仙<sup>一</sup>  
 魚<sup>一</sup>苞<sup>一</sup>く<sup>一</sup>一<sup>一</sup>種<sup>一</sup>く<sup>一</sup>知<sup>一</sup>れ<sup>一</sup> 房<sup>一</sup>う<sup>一</sup>ね<sup>一</sup> 菴<sup>一</sup>牙<sup>一</sup>  
 ち<sup>一</sup>り<sup>一</sup>秋<sup>一</sup>や<sup>一</sup>松<sup>一</sup>葉<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>ほ<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 苔<sup>一</sup>の上<sup>一</sup> 九<sup>一</sup>年<sup>一</sup>  
 り<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>橋<sup>一</sup>て<sup>一</sup>羽<sup>一</sup>と<sup>一</sup>糸<sup>一</sup>波<sup>一</sup>や<sup>一</sup> 芥<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>つ<sup>一</sup>風<sup>一</sup> <sup>五十一</sup>ち<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>  
 布<sup>一</sup>く<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>巾<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 後<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>や<sup>一</sup> 糸<sup>一</sup>長<sup>一</sup>と<sup>一</sup>見<sup>一</sup> 乙<sup>一</sup>良<sup>一</sup>  
 夢<sup>一</sup>白<sup>一</sup>く<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>け<sup>一</sup>き<sup>一</sup>瓦<sup>一</sup>川<sup>一</sup>の<sup>一</sup>木<sup>一</sup>僅<sup>一</sup>沙<sup>一</sup> 望<sup>一</sup>眠<sup>一</sup>  
 楠<sup>一</sup>櫛<sup>一</sup>の<sup>一</sup>一<sup>一</sup>と<sup>一</sup>川<sup>一</sup>く<sup>一</sup>や<sup>一</sup> 梅<sup>一</sup>此<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>つ<sup>一</sup> 志<sup>一</sup>福<sup>一</sup>  
 菴<sup>一</sup>盆<sup>一</sup>垂<sup>一</sup>く<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>り<sup>一</sup>し<sup>一</sup> く<sup>一</sup>の<sup>一</sup>む<sup>一</sup> 五<sup>一</sup>具<sup>一</sup>  
 蝶<sup>一</sup>く<sup>一</sup>け<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 鶴<sup>一</sup>も<sup>一</sup>羽<sup>一</sup>町<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 樹<sup>一</sup>の<sup>一</sup>ぬ<sup>一</sup> 季<sup>一</sup>山<sup>一</sup>

の<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>仙<sup>一</sup>吹<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>る<sup>一</sup> 大<sup>一</sup>経<sup>一</sup>  
 く<sup>一</sup>け<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>や<sup>一</sup>る<sup>一</sup>く<sup>一</sup>れ<sup>一</sup> 行<sup>一</sup>の<sup>一</sup>ぬ<sup>一</sup>く<sup>一</sup>上<sup>一</sup> 菴<sup>一</sup>莪<sup>一</sup>  
 布<sup>一</sup>く<sup>一</sup>ハ<sup>一</sup>突<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 梅<sup>一</sup>う<sup>一</sup>け<sup>一</sup>て<sup>一</sup> 垂<sup>一</sup>け<sup>一</sup>く<sup>一</sup>外<sup>一</sup> 菴<sup>一</sup>古<sup>一</sup>  
 糸<sup>一</sup>垂<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 盤<sup>一</sup>送<sup>一</sup>た<sup>一</sup>て<sup>一</sup> 糸<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup>ん<sup>一</sup> 孤<sup>一</sup>舟<sup>一</sup>  
 燈<sup>一</sup>籠<sup>一</sup>の<sup>一</sup>海<sup>一</sup>糸<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 岩<sup>一</sup>や<sup>一</sup>落<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 菴<sup>一</sup> 茶<sup>一</sup>山<sup>一</sup>  
 巾<sup>一</sup>も<sup>一</sup>落<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 水<sup>一</sup>く<sup>一</sup>や<sup>一</sup> 梅<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>の<sup>一</sup> 林<sup>一</sup>の<sup>一</sup>風<sup>一</sup> 好<sup>一</sup>静<sup>一</sup>  
 糸<sup>一</sup>垂<sup>一</sup>の<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 糸<sup>一</sup>や<sup>一</sup> 糸<sup>一</sup>れ<sup>一</sup> 梅<sup>一</sup> 千<sup>一</sup>年<sup>一</sup>  
 糸<sup>一</sup>く<sup>一</sup>や<sup>一</sup> 糸<sup>一</sup>く<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 一<sup>一</sup>糸<sup>一</sup> 糸<sup>一</sup>の<sup>一</sup> 糸<sup>一</sup>え<sup>一</sup> 重<sup>一</sup>海<sup>一</sup>  
 糸<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>く<sup>一</sup>の<sup>一</sup> 甲<sup>一</sup>も<sup>一</sup> 一<sup>一</sup>糸<sup>一</sup>や<sup>一</sup> 落<sup>一</sup>く<sup>一</sup> 糸<sup>一</sup> <sup>冬</sup> 五<sup>一</sup>秋<sup>一</sup>

借ふれ玉やくくりてち 柳 梅

そや タシマ 掃 忠雄

まよの ハウキ ちん 英城

鈴 イッモ や 阿比

ま 互儀

多 百年

麻 厄和

得 秋行

乙 英里

柳 信功

花 桂珠

除 柘園

お 梅年

宿 笠村

雪 月亮

美 柳玉

む 松巖

人 新詠

減 新詠

て 新詠

よ 新詠

ん 新詠

月 新詠

涼 新詠

妙 新詠



葉の香や甲のしーふのむと何處 白也  
 々仲とやふ草行り々ふの月 執中  
 初あ〜れよふふふふ月 春人  
 投きり此葉もほし〜きありのり 魯林  
 黄もやめれ羽振ふて 在りの張 橋二  
 風の落もちりま〜き 峰のそ 橋三  
 四つはと律動〜ま〜るんふ 橋石  
 名月や徹流ふても 流り〜何 江南  
 朝もやほ〜そむ井のふ〜里 琴也

朝もやほ〜そむ 葉の 快きし 柳 塘  
 ま〜ま〜 隣〜 女もや 初山 千 船  
 あり船もあら〜れ草あ〜き〜峰 宜 風  
 名月や水お〜き〜き 谷の川 良 知  
 舌園の一も然〜て 去月 橋 千 山  
 山〜く〜上余れ〜あり峰の松 涼 二  
 大船も橋ふ〜れ〜ま〜し〜初あ〜し 菜 圃  
 明翠の光もほ〜ら〜ま〜し〜ま〜りの 橋 次  
 ま〜ら〜く〜し 船の 命〜 ち〜れ 月 菜 好

新餅もま〜日経日梅もる 鹿公  
 中は止る田ありよ後や鳴よ 繩 扇 柵  
 障子の中や 秋のせき<sup>アキ</sup> 希原  
 月夜や 芦るくようつを 昌川  
 美早の若もたつ〜天々川 其妻  
 新氣や 是も通るまほの 泉 泉  
 確の中の家う 集り 泉 泉  
 ふさりに けしきと 新 泉  
 玉やく〜と 集り 泉  
 方之

葉よか〜れ 埃おめけてる 蔭の心 蔭池  
 新氣や 是も通るまほの 泉 泉  
 こそ思〜し けの 日ハあり 泉  
 蔭の葉よも〜と 集り 泉  
 ありる や 集り 泉  
 初秋の 是も通るまほの 泉  
 初〜ふ 集り 泉  
 ありの 是も通るまほの 泉  
 初〜ふ 集り 泉  
 初〜ふ 集り 泉

古葉さし庭くまのすく清水、孤河  
 木かゝしや栞をとれあふれば  
 情松や草もさる川 新の川 大洋  
 文おとすねあふりよけりきり <sup>アハ</sup> 魯道  
 風つらぬぬの暮も夕ぐれ 羽長  
 着柳のささけや 雷  
 美架の袋 龍うる小寺こりね 美倫  
 中途くまゆし 海や 龍一  
 よろこひのゆきや 折く甲はるる 思風

ちりくまをむすくくまを 向月  
 雲川やを路も一葉の流るる 龜年  
 木を風細く 山の嶺 素天  
 相一葉落るるや 飛松の上 羅時  
 去るれ海のささけり波に 月吉  
 稿書の臨平や 舟路の 一ツ木 隆野  
 師の末しやまゝおきり <sup>サヌキ</sup> 木長  
 草の山つり 舟路の <sup>イヨ</sup> 草石  
 着柳をくくまを <sup>イヨ</sup> 蘇澄

名月や人形くく仲の新たぐみ 表儀  
 志くぬくやゆもふえへ あれ枕え 葵笠  
 まくまのや 柳の芽くす 燕翁  
 親の愛美咲てり 康子くす 芦唄  
 福あくくすれや枯ゆめくく 四 芦河  
 名月や芦をまゆれ 早ゆり 斗仙  
 舟のまの如襟を又えれくくのど 一巻  
 襟帯くく 光る襟くく 自在牛 木拭  
 嘆曰くくまの音能れ 赤楨 其流

言候くくまの事や 一珠  
 る止て井くぬ 橋くく 葉あゆ 如江  
 せくぬく 拾ふ 葉あゆ 三ヶ日 市玉  
 砂山や月又印くく 花下り 才忘  
 紫余くく 表もくく 表のま 小蘭  
 小指紙れ人のあくくや 鴨のま 葉團  
 豆くく ちてまきくく 切や 表れサア 兎矢  
 紫陽まの枝のま 切くく 表れ 波田  
 まくく 柳のまきくく 柳くく 表れ 才外



於此前天目山幻住庵無外 遺也

山如やさしく暮るふ 夜の音

暮又きき月 雪は 忘 斗丈

から衆の鶴印も殺るもの来て 宇逸

唐く 師のむけは 端次 丈梧

風の暮れ方と風と場の初まの 椿 歳

暮を 安ん 尊 返の 若 若 月

子狐の列くしけふ 出て 出 若 若 月

三昧のり くらりかき 鳳尾

蹠を 枕侍く 号員 盤川 上せて 木 女

まくる あり 健 志 水 木 榎

九重の 志を 去る 小 乃の 七 字 八 重 市 睦

暮に 土 川 たる 夜 の 土 川 厚 乙 圓

海を 走る 暮れ あり や 乃 朝 の 月 若 半

山 也 まする 清 の 出 代 乙 逸

鴉 胸 を い ぶ 暮れ あり 若 半 歳 從 丈

暮る たり 八 暮る 若 半 歳

除夜の鬼おいられりてり家の妻 尺  
 鈴りく鉤もねふ 穂 儀 春 枝  
 解るるく切のりりるをす重 槌  
 牛のもろろけりるは籠 荷 水  
 唾くくふむせりお庭をくせし 月  
 けしをよる嫁の化粧 交 丈  
 牙もろろをさくもつて 湯 糸 逸  
 日傘てりるくるのりりて 梧 尾  
 皮剥の何を費や 恐 鳴 不

云輪の塔と 遠く ちり 水 月  
 米 唾り 杓干 ともろりて 午時 儀 水  
 あくくく ね ちりくくく 暮 株  
 十四夜子 結子の 窓を 云い 延 踏 丸  
 小舎 住 ちり ちり 角力 毛 逸  
 糸の 穂り 店 庭の 門の 埃 ちり 丈  
 糸 延ふ ちり 登 け 糸 書 丈  
 半天へ 送 ちり ちり 山 供 まりり 素 丈  
 おりり 米 ちり ちり 麻 け ちり 柳 絲

茶漬ふゆの湯くく挿きして石外  
柳を柱の中ふまゝに

千々セニ

燈のくけし春のたふふるぬ  
斗丈  
千々鳴く懐れつゝさや幸の布  
空逸  
消はりさのまじや  
風者  
まの月肉く  
木無  
さうや  
高月  
さの灯のまを  
希睡

くかやいさき持や  
路元  
ふ月さの  
巻草  
やまを  
巻草  
めき  
文梧  
まの  
梅志  
さ  
柳系  
新  
初  
未  
乙



於肥前大村長安寺無事

荅仇石士

いつ言ふて、り田の上れ、まの月

燈をけり、まのりて、鳴、ひと

海苔堂のそね、まの振、い、あ、て

は、く、い、い、ま、ま、ま、ま

疾、ま、ひ、連、て、り、所、ま、先、ま、寸、長

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

祇、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

猿、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ

葛、藤、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

借、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

から、く、く、く、く、く、く、く、く

急、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

松、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

端、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

何、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

半、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

六一本志を墓より嘆息所新 務甚  
 口徳の經を葩おちるんじ 芋丈  
 供呼氣をくも玉用ふ木の字、 史敬  
 唐金をハばく午時の振え 旭水  
 葬礼をアさかるものありある 文旨  
 う笑しうる氣は形の真一化  
 り然りうる氣ハ計はる 支  
 ふらん冠てある人を誰 羣  
 経多の咄もあつて静あるまゝの入 泥

昔いあやうれ乾く新桶 長  
 猿柳一泣りぬ 箒もさくく 柄  
 日坂之の結末を 持たむ 案  
 ありあつてあつて 二日月 堂  
 せふう標し 教ハちをふ 圃  
 山寺の修習をさす 竹やうれ 畝  
 火以中代れ能うさくぬる 巨  
 境代りうる縄流すさくしを 文  
 一寸取あく人をさくしらせ 高







名作一遠入めめや 名本 権 石 糸  
ワカキ  
 糸下名所へ神々もむり白ひくぬ ささ紀  
 名作のまふりきり 園あり守 権  
セツ、  
 松へ鳴くまふんくくやや 松の音 古 権  
アフリ  
 脊戸門くく名作のまふりや 名本 糸 権  
 作一ゆめの片の急い庵やう能電 津 糸  
 形くくく一深くまを清くぬ 糸 糸 糸

蕉門御摺物所

此は文次才出末以上也

京四條寺町東へ入御藤町

湖雲堂近江屋利助

